

にほんご おもしろ ざつがく れんしゅうちよう

ごげんへん

日本語 雑学練習帳

【語源篇】



日本雑学能力協会 (編著)

新講社

日本語おも

江苏工业学院图书馆
藏 书 章

雑学練習帳「語源篇」

雑学能力

著

新講社

にほんご ぎつがくれんしゅうちょう ごげんへん
日本語おもしろ雑学練習帳【語源篇】

2000 年 2 月 15 日 第 1 刷発行

2000 年 4 月 4 日 第 18 刷発行

編著者……………日本雑学能力協会 © Nihon Zatsugaku Nouryoku-Kyokai, 2000

企画・編集……………株式会社波乗社

© Naminori-sha, 2000

発行者……………大谷松雄

発行所……………株式会社新講社

東京都千代田区飯田橋 4-4-9

ダイアパレス飯田橋 410 〒 102-0072

電話 (03) 3234-2393 ・ FAX (03) 3234-2392

振替 ・ 00170-6-615246

印刷所……………辻光舎印刷株式会社

製本所……………株式会社グリーン製本

●……………乱丁・落丁本はお取替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

ISBN4-915872-47-5 Printed in Japan.

日本語おもしろ雑学練習帳【語源篇】…………… 目次

【第1部】初級篇

1 「赤っ恥卒業」をめざす練習問題

「くだらない」の由来とは？	1
「びびる」とはいつたい何語なのか？	1
関西弁の「しんどい」。何が由来になったのか？	1
「なまめく」には二つの言葉が隠れている	1
悪事を「すっぱ抜く」の「すっぱ」とは何か	0
面倒を見ることをなぜ「世話を焼く」と言うか	1
「とこのつまり」でつまったものは何か	2
「滴を持す」の語源は何か	2
「あわよくば」の語源は何か	2
「油を売る」と怒られるのはなぜか	2
「おくらになる」の「くら」とは何のことか	2
「おもしろい」って何が白いのか？	2
「うそぶく」とは何なのか	2
「あいつ、いい奴だったのにグレちゃった」の「グレる」とは？	0
「そっけない」とは何がないのか	1
「いびる」と薫製の関係とは？	2
「くだをまく」のは亭主がおかみさんか	3
「えんぎをかつぐ」の語源は何か	4

人間、
いづどこで
恥をかくか
わからない

2 「そうだったのか!」目からウロコの練習問題

「藝医者」の「藪」とは何か

3 5

生娘のことをなぜ「処女」と言うのか

3 6

「ろくでなし」の「ろく」とは何のことか

3 7

なぜ下手な役者を「大根役者」と呼ぶのか

3 8

「へちま」の由来がわかればすごい

4 0

お菓子の「最中」はなぜ「もなか」なのか

4 1

酒飲みのことをなぜ「左党」あるいは「左利き」と言うのか?

4 2

「最右翼」はなんで右なのか

4 3

「二じつけ」とは何をつけるのか?

4 4

「ボン酢」の「ボン」って何?

4 5

「タコ部屋」とはどんな部屋なのか

4 6

忌まわしいことを前に「くわばらくわばら」と言うのはなぜか?

4 7

「関の山」とはどんな山か?

4 8

「現ナマ」は生もの?

4 9

「せがれ」は早死しない

5 0

「奥の手」は右手か左手か

5 1

「血税」とは血であがなう税のこと?

5 2

「杞憂」の由来は中国の古書にあった

5 3

【第2部】中級篇

1 「裏世界」から生まれ出た言葉

「裏目に出る」とはどんな目か	58
「でたらめ」は「出鱈目」ではない	59
「ピンはね」はほどほどにして欲しい	60
刑事はなぜ「デカ」なのか	62
「ごまかす」の「ごま」は胡麻のことか	63
「刺青」と「入れ墨」は別なもの	65

2 「芸能」から生まれ出た言葉

語源を探れば芸能に行き着く？	68
演劇をなぜ「芝居」と言うのか	69
「板につく」とはどんな板か	71
「ドンチャン騒ぎ」はただのバカ騒ぎではない	73
「十八番」は一つでなくても構わない	75
「ここが正念場」も歌舞伎の舞台から	77
「千両役者」は本当に千両もらったのか	80
「幕の内弁当」はなぜ「幕の内」なのか	82
「二枚目」「三枚目」があつてなぜ「一枚目」がないのか	83

日本文化、
風俗が
よくわかる

相撲で力士の出身地を紹介するのはなぜか
 「はつけよい」、この意味不明な言葉の語源は何か
 8 4
 8 5

3 「商売」から生まれ出た言葉

「おあいそ」がなぜ、勘定のことなのか
 「さばを読む」の「さば」とは何か
 8 8
 8 9
 「両替」の語源はじつに素朴
 9 1
 「水商売」は「水売り」がルーツか
 9 3
 安く売ることをなぜ「勉強する」と言うのか
 9 5
 たかが「手形」がなぜ現金同様の価値を持つのか
 9 6

4 「時代小説」がぐんぐん面白くなる

「総領の基六」とは褒めているのか、けなしているのか
 9 9
 「裏だな」の暮らしは六畳一間、バス・トイレなし
 1 0 1
 離縁状のことをなぜ「三行半」と呼ぶのか
 1 0 2
 「捕り物」がわかれば時代小説がわかる
 1 0 4
 「八丁堀の旦那」の正体は誰か
 1 0 7
 「目明し」「岡っ引」は庶民の味方だったか
 1 0 8

5 語源を知って恋するか、知らないで恋するか

辛い別れを「きぬぎぬ」と言うのはなぜか

「やらずの雨」とはどんな雨か

「あられもない」の「あられ」とは何か

男と女、「オトコ」と「オンナ」の語源は何か

「にべもない」の「にべ」とは草木か魚か

「わりない仲」は割れるか割れないか

恋の成就是「相性」で決まるのか？

別れた男女はなぜ「赤の他人」になるのか

1 1 1

1 1 2

1 1 4

1 1 5

1 1 6

1 1 8

1 1 9

1 2 0

6 漢字に直して初めて「ああ、納得」の言葉たち

「たちまち」はそれほど短い時間ではなかった

「くろうとはだし」は「はだし」で説明

「うやむや」なままではいけない

「かけひき」が上手とは何が上手なのか

「しのぎをけずる」のはなぜ息詰まるのか

「まとも」な人生とはどんな人生か

「きのどく」と「きざ」は似ている？

心のもつれを「かつとう」と言うのはなぜか

「ロハ」だけはなぜカタカナ表記なのか

1 2 2

1 2 3

1 2 4

1 2 6

1 2 7

1 2 9

1 3 0

1 3 1

1 3 2

これまたひねりの効いた「おんのじ」
「せつかく」だから覚えておこう

1 3
3 4

7 思わず快哉、面白い「ことわざ」の由来

敗軍の将、兵を語らず

1 3
3 7

風が吹けば桶屋が儲かる

1 3
3 8

匙を投げる

1 4
4 0

破竹の勢い

1 4
4 1

逆鱗に触れる

1 4
4 2

立錐の余地なし

1 4
4 3

小田原評定

1 4
4 4

背水の陣

1 4
4 5

木で鼻をくくる

1 4
4 7

漁夫の利

1 4
4 8

元の木阿弥

1 4
4 9

六日の菖蒲・十日の菊

1 5
5 0

【第3部】上級篇

1 「これは意外！」の語源たち

「あばたもえくぼ」の「あばた」も仏教から来た	1	5	4
誰もないのになぜ「留守」なのか	1	5	5
「だめ」なんて簡単な言葉だと思うけれど	1	5	6
「だらしない」は方言なのか	1	5	7
「札つき」がなぜ悪い意味に使われるのか	1	6	0
落ち目を意味する「左前」とは何のことか	1	6	2
「上前をはねる」の「上前」とは何か？	1	6	3
「左うちわ」ならなぜ優雅な暮らしになるのか	1	6	4
豪華な食事やおいしいものをなぜ「馳走」と言うのか	1	6	5
「もぬけの殻」には何が入っていたか	1	6	7
「おじゃん」になればなぜ終わりなのか	1	6	8
「しおり」は繊細な響きのわりにポキポキした文字だ	1	7	0
舌を噛みそうな「ろれつ」とは何か	1	7	1
「所帯」と「世帯」は同じか違うか	1	7	2
「稽古」という字の古めかしさには何か隠されている	1	7	4
どちらも音が言葉になった「頓珍漢」と「天手古舞」	1	7	5

これで
今日から
「日本語博士」

2 「しきたり・伝統」がわかる語源

「敬う」からわかる日本人の贈りものの好き	177
「土産」は「みやげ」か「どさん」か	178
「お歳暮」はわかるが「お中元」がわからない	179
「節句」と食べることは切り離せない	180
正月のめでたい酒をなぜ「屠蘇」と言うのか	182
「七夕」と書いてなぜ「たなばた」と読めるのか	183
酷暑の頃がなぜ「土用」なのか	185
「半ドン」の「ドン」は音か言葉か	186
人生最初の節目、「お七夜」「お宮参り」	188
「七五三」はなぜ「六四二」にならなかったのか	189
どうぞお幸せに、「結納」「三三九度」の語源	190
「還暦」は読んで字のごとく暦の一回り	192
実物とはまったく似てない「蒲団」という字	193
「五月雨」に込められた稲作への祈り	194
「しゃもじ」とはもともと何のことか	196
「おいしい」も「ひもじい」も女房詞	198
「菓子」に秘められた食文化の変遷	199

3 漢字を眺めて語源を推理する

「三和土」となれば読めないどころか意味もわからない	2	0	1
「竊」とはよくぞ作った亭主たち	2	0	2
大工の親方はなぜ「とうりよう」なのか	2	0	4
「欠伸」も「吃逆」も身から出るもの	2	0	5
「さあ大変」が、なぜ「おおわらわ」なのか	2	0	6
「さあ大変」が、なぜ「おおわらわ」なのか	2	0	8
店が古ければ「老舗」というものではない	2	0	9
「下戸」で悪いかと言いたくなるが	2	1	1
「几帳面」な性格は並大抵のものではない	2	1	2
「流石」はそもそもこじつけから始まった	2	1	3
「合点」がなぜ承知の意味なのか	2	1	4
「にっちもさっちも」はいつたどういう状態か	2	1	6
「埒が明かない」と最後はどうなるか	2	1	7
「白川夜船」ののどかなウソ	2	1	9
「推敲」は気長にやろう	2	2	0

参考文献

2 2 2

【装画】唐仁原教久
 【装丁】福田和雄
 【協力】芝田幸男

やませみ工房

日本語おもしろ雑学練習帳【語源篇】

【第一部】初級篇

人間、
いどこで
恥をかくか
わからない

日本語を知らなかったら、電話もできない、手紙も書けない。そもそも考えることができないから、自分がどんな人間かもわからない。

旅行もできないし、買い物もできない。当然、恋を囁くことも友と談笑することも不可能だ。日常生活を何不自由なく過ごせるのは、最低限の日本語を知っているからだ。誰でも人に会えば挨拶するし、会話する。相手が上司なら「ゴマをする」こともあるだろう。

では、なぜ上司に迎合することを「ゴマをする」と言うのか。途端にわからなくなる。「ゴマ」は料理に使う白や黒の「胡麻」のことだ。胡麻をすり鉢でするとベタベタしてくる。これが由来で、人にベタベタして機嫌を取ることを「ゴマをする」と言うようになった。

つまり、どんな言葉にも語源があり由来がある。

語源を知らなくても日常生活で困ることはないが、知ったことで使うのをためらってしまう言葉もあったりする。たとえば、「お愛想」。

本文で紹介するが、この言葉はもともと廓くわで使われた。鼻の下を伸ばした男に対して「お勘定」のことを「お愛想」と言ったのだ。語源を知ってしまえば、よほどニヤけた男以外は使うのをためらうはずだ。

日本人は宗教心が薄いと言われる。だが、日本語の中の仏教用語は多い。「足を洗う」も「金輪際」も「仏頂面」も「四苦八苦」も仏教から来た。